

青森県六ヶ所村に日本原燃が建設を進めている使用済み核燃料再処理工場について、原子力規制委員会は2020年7月29日、同工場に計画されている安全対策が「新規制基準に適合している」との「審査書」を決定しました。これにより再処理工場建設がまた一歩進んでしまいます。同工場は国策である核燃料サイクル計画の中核をなすものです。

核燃料サイクル計画とは、各原発の発電後に出る使用済み核燃料を再処理して取り出したプルトニウムを高速増殖炉で使って発電したり、プルトニウムとウランをMOX燃料に加工して、それを専用の原発や一般の原発で燃やして発電する(プルサーマル発電)という施策です。

しかし、このサイクル計画の次の問題点があります。

- ①使用済み核燃料を保管する、再処理工場内のプールも、各原発での保管場所も満杯になりつつあり、その持って行き場がなくなっている。
- ②プルトニウム利用を目指した高速増殖炉もんじゅは1兆円の税金をつぎ込みながら、何の成果もあげずに2016年に廃炉が決まり、MOX燃料の利用も進んでいない。
- ③再処理によって生み出される核のゴミ(高レベル放射性廃棄物)は10万年間も人類から隔離しなくてはならない強い毒性を持っているが、その処分の見通しが立っていない。まさに保管できない、使えない、捨てられない代物なのです。

このような施設に総額で16兆円超(MOX燃料加工工場の建設費を含む)もの税金、電気使用料をつぎ込むことは、もはや犯罪的な施策以外の何物でもありません。2016年にテレビ朝日の「報道ステーション」は、「すでに核燃料サイクルの放棄が経産省と電力会社の間で検討されたことがあったにもかかわらず、次の理由で続けられてきた」という経緯を報道しています。

- ①それまで莫大な費用をつぎ込んできた施策の失敗の責任が問われる。
- ②サイクルを前提として六ヶ所村に保管されている使用済み核燃料が各原発に戻されてくると、原発での保管場所がなくなり、原発稼働ができなくなる。
- ③再処理して発電に利用するためとして世界各国に容認されてきたプルトニウムの大量保管が世界的非難を浴びる。

●「止めよう再処理! 100万人署名」が取り組まれています。署名用紙をお配りしていますので、ご協力をお願いいたします。(締め切り2021年3月31日)

●裏面にはリモート講演会のおしらせがあります。

# 使用済み核燃料再処理工場



# もはや犯罪的

# 稼働への動き

